児童・生徒の現状・課題

学習意欲はあるのの、基礎・基本の理解や技能の定着が不十分で、一時的な理解にとどまる児童が多くみられる。家庭学習や復習の仕方が確立していないことに加え、新しい学習内容に負荷がかかることで「わからない」が蓄積し、自己効力感の低下につながっている状況である。

学び続ける力を育むための重点目標

○基礎的・基本的な学習内容を振り返り、自ら課題を見出して次の学びへ主体的に取り組めるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	81.2%	90%	
②授業のはじめには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組むかだいやめあてを確認したりしている。	73.4%	80%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	65.7%	85%	
②児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため、授業や家庭学習等において、手立てを講じたり、指導したりしている。	84.4%	90%	

具体的な手だて①

学習計画を共有し、その授業のめあてや学習内容を明確にし、学習の見通しをもてるようにする。

具体的な手だて②

課題に対して複数の学習方法や教材(プリント、ICT機器など)を提示し、自分に合った方法を選択できる場面を設けるようにする。

具体的な手だて③

学習中・学習後に「できたこと・課題・改善点」などをノートや学習カードに書く時間を設けるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

校内で100実践を目標に教員で授業を公開し見合う。また、授業観察をした際には、気付いたことや疑問に思ったことなどを必ず授業者にフィードバックし、次の授業に生かせるようにする。

総括(5月)

今年度の全国学力調査では、全国の平均値を上回る結果となったが、単元テストや東京ベーシックドリルの結果を見ると、該当学年以前までの基礎的・基本的な学習内容の定着がまだまだ不十分である。児童の自己効力感を高め、基礎基本を定着させるには、個に応じた指導場面を確保する必要があると考え、児童が能力に応じて課題を選択し自ら学習を進められるような授業改善をしていくこととした。

総括(1月)